

# さくらだより【22号】



2012年8月1日発行

最近若い女性が性病に対する関心のみならず、子宮筋腫や子宮内膜症の早期発見に関心を持ち、将来の結婚、妊娠等の人生設計に影響を与える病気の予防や、早期治療を希望するようになりました。特に月経痛が強い女性は、子宮内膜症を疑って来院し、多少なりとも疑いがあれば、低用量ピルの使用を拒否しない例も増えています。ピルは排卵が止まる妊娠中は子宮内膜症の病状がよくなる性質を利用して、妊娠中に似た状態にするいわゆる偽妊娠療法です。病気が治るわけではありませんが長期間使用でき、痛み、月経量、さらに病気の進行を抑えることができるし、又避妊もできるメリットもあります。ただ結婚していて妊娠を希望している人には使用できません。1ヶ月2000円～3000円と他の内膜症の治療薬より安価です。子宮内膜症の治療には他にもジェノゲスト、GnRHアゴニスト等ありますが、副作用やその効果、長期間の使用という点を考えると低用量ピルを推奨します。もちろん手術療法もあります。大きな卵巣のう腫（チョコレート）がある場合は、手術による摘出も選択肢の1つです。ただ気を付けないといけないのは子宮内膜症は手術をすれば治るという認識をまだ多くの人がもっているという点です。常に手術によって効を奏する人がいますが、再発するケースが多いことも事実です。これから結婚、妊娠、出産を控えている若い女性はチョコレートう腫があり手術を勧められても将来の妊よう性に対する説明を十分聞き、納得してからにしましょう。再発する可能性があるからといって卵巣を摘出されてしまったり、ねこそぎ核出されてしまうと、将来妊娠できない人が数多くいることが現実です。卵巣の組織はある程度残しておかないと体外受精もできなくなることがあるからです。月経痛、排便痛、月経時以外の下腹痛等内膜症の症状はつらいですが、低用量ピル等を上手に使って、将来の人生設計を考えながら治療をすることをおすすめします。

## 子宮内膜症の主な治療法の特徴

《対症療法》 ・鎮痛剤や漢方で痛みを和らげる

《ホルモン療法》 ① 低用量ピル・・・低価格で副作用が少なく、長く使える

② ジェノゲスト・・・痛みを和らげる効果が高い。不正出血しやすい

③ GnRHアゴニスト・・・病巣を小さくする効果は強い。副作用も強く、継続使用は半年まで。

《手術療法》 ・不妊の改善や将来、妊娠の希望があれば病気の部分だけ切除

・妊娠希望がなく根治を望めば、卵巣（場合により子宮も）摘出